

教師を対象とした探究的学習プログラムの開発と学校教育への展開

後藤郁子（お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 特別研究員）

■**研究の背景**：本研究は、今日の学校教育で課題となっている「探究力」や「活用力」（OECD-PISA 学力調査などより）を育成するためには、「教師自身の探究力」の育成が必要であるという問題意識の下で進めてきた。その背景として、教師は、自分の指導方法・技術に対し自己評価が極めて低いという調査結果（国立教育政策研究所・JST理科教育支援センター, 2009）がある。理科の自由研究に関する指導技術については、実に81.1%が低い・やや低いと答えている。また、近年の心理学的研究から、1対1の場面であっても、生徒の理解度を正確に把握するのは困難であるという知見も示されている（Chi et al., 2004）。更に、団塊世代の大量退職で初任教師が年々増加している現在、初任教師の指導力不足が子どもの学力格差を生む要因になっているという指摘や、初任教師は学習指導のプランニングや指導理念、指導方法などの知識はあるが、自分が指導の主体者として子どもと向き合った状況の中では上手く実践できないという研究結果もあり（後藤, 2011b）、既存の養成期におけるボランティア体験や教育実習の在り方も問われている（諏訪他, 2011）。しかしながら、これまで教師の指導力不足を改善するために教師の探究力に視点を当てた研究や、養成期の大学生を対象とした探究力育成のための学習プログラムに関する研究は見当たらない。

■**研究の目的とフィールド**：本研究では、教師及び養成期の大学生の指導力を培う場として都内小中学校で放課後や土曜日に実施している子ども教室や個別学習相談を通し、「教師の探究的学習プログラム」の開発を目指す。この学習プログラムは、参加する大学生が、「①教育心理学の領域において個別学習相談を通じた実践的研究活動として提案されている認知カウンセリングを学ぶ。②自分たちでも実際に子ども教室や個別学習相談（自由研究・調べ学習）の指導に当たることで、子どものつまずきを可視化し個々に合った支援方法を工夫する。③実施後に振り返り（ケース検討）を行い、指導の改善点を見出し次回の指導や模擬授業に生かす。」というプロセスから成る。

■**分析枠組み**：本研究では、大学生の探究的学習を検証する分析枠組みとして、エンゲストローム（2010）の「探究的学習のサイクル」の考え方を参考にした。この理論は、探究的学習サイクルの出発点は、学習者の実践活動の中で起きる実際の問題やコンフリクトであり、その学習サイクルは、①動機づけ、②方向づけ、③内化、④外化、⑤批評、⑥統制という6つのステップの学習行為から成る。このエンゲストローム（2010）の「探究的学習のサイクル」を大学生の実践指導における「探究的学習プロセス」に改変し分析・考察を行った。また、個別学習相談の自由研究や調べ学習などにおける子どもたちのつまずきやその要因については、認知カウンセリングの理論を参考に分析・考察を行った。

■**記録の方法**：記録は、基本的には実践指導後に行う振り返り及び1時間程度の大学生に対するインタビューを筆者がメモし、後日まとめたものである。またケース検討会終了後に参加者が書いた感想及び筆者のメモを整理し記録にした。更に、大学生が作成した指導記録も記録として活用した。

■研究結果及び成果：

1、教師の探究力を育成する思考ツール「認知カウンセリング」を通じた個別学習相談体験

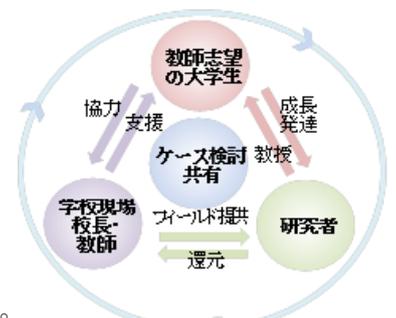
- ・インタビューや感想のデータから、大学生は認知カウンセリングを学んだことで、実践指導において子どものつまずきを把握し、課題解決の方策を見出していくという探究的な学びができるようになったと示唆された。教師の探究力を育成する思考ツールとして認知カウンセリングが効果的に働いたと言える。
- ・自由研究や学習新聞づくりなどのスタート時に、指導者（大学生）が子どもたちのつまずき（矛盾や葛藤）を把握し、解決のため一緒に向き合う支援は、指導者（大学生）の探究力や活用力を磨き、同時に、各教科の確かな知識・理解の重要性を知ることで、今強く求められている総合した学力を培うことの重要性に気付く大事な学びと言える。

2、教師の探究力を育成する指導ツール「協働性を生かしたOJT」を通じた模擬授業体験

- ・大学生Sたちの模擬授業体験では、指導法選択の判断は大学生たちに委ねられるアクティブラーニングが展開され、大学生Sたちの課題解決の行為能力(山住 2008)を生み出すことに寄与していた。これは協働的なOJTの事例と言えるが、同時に、ここでの大学生たちの探究な学びは、今日課題となっている初任者育成に係る指導の在り方に、新しい一つのモデルを示したと言える。

3、教師の探究力を育成する「ネットワーク（エンゲストローム,2008）」の構築

本研究を通し、大学生の探究的学習を支え、同時に、教育環境の充実及び研究者の発展に寄与してきた学びのコミュニティの活動は、エンゲストロームの言うネットワークと言え、「教師の探究力を育成するネットワーク」として右図に示した。



【教師の探究力を育成するネットワーク】